

令和2年度第2回伝国の杜運営協議会議事録

1 開催日時 令和2年12月16日(水) 午前10時00分～午前11時30分

2 開催場所 伝国の杜2階 第1、2小会議室

3 出席者

(委員)

堀江 昭浩 (置賜地区高等学校教頭会会長)

後藤 満男 (中学校教頭会会長)

鈴木 淳一 (小学校教頭会会長)

小川 正昭 (一般社団法人米沢観光コンベンション協会専務理事)

那須野桂子 (伝国の杜ファンクラブ)

前山みゑ子 (伝国の杜サポーター、おしょうしなガイド)

長谷川茂則 (米沢フィルハーモニー管弦楽団)

山村 洋子 (原始布・古代織参考館副館長)

山根 秀樹 (米沢古典塾主宰)

布施 賢治 (米沢女子短期大学教授)

計 10名

(事務局) 公益財団法人米沢上杉文化振興財団

種村信次 (理事長)、島津眞一 (副理事長兼博物館長)、

菅野智幸 (常務理事兼事務局長)、花田美穂 (学芸担当主査)、阿部哲人 (主査)、

安部理絵 (主任)、寒河江大輔 (総務担当主査)、小松史織 (主事)、

鈴木里津 (主事)

計9名

4 開会 (常務)

5 あいさつ (理事長)

本日はご多忙の中、ご協力頂き深謝する。最近は新型コロナウイルス感染状況が非常に悪化しており、山形県でも毎日二桁の罹患者が出ている状況である。また、GOTO キャンペーンを一時停止するという報道もあり、なかなか厳しい局面に入っている。当館は、先日まで、特別展「米沢城～上杉家の居城」を開催していた。こちらに関しては、GOTO キャンペーンの影響もあり、16,000人程の入館者があり、徐々に目標入館者数を達成することができた。現在はコレクション展「武士たちの行列」を開催しているが、先ほどお話ししたように入館者が厳しい状況になっている。また、2月には「138億光年宇宙の旅」という企画展を計画しており、世間では「はやぶさ2号」が地球に帰還し話題になっているため多くの方々に来館頂けるのではないかと期待している。ただ、新型コロナウイルスの状況によっては様々対応を検討する必要がある。

委員の皆様においては、来年の7月で2年間の任期を終えられることとなり、今回の会議が最後の会議になる。2年間、活発なご意見を頂戴し大変感謝している。任期満了まで様々なご案内をお送りすると思うが、引き続きよろしくお願ひしたい。

6 議 事

運営協議会要綱第6条に基づき、小川正昭会長が議長として議事を進行。

(1) 令和2年度第1回伝国の杜運営協議会の意見要望に対する取り組みについて

①上杉文化エリアに人を呼び込むには（資料1、2）

資料1、2について、事務局から概略を説明した。

(議長)

前回協議会で出た案について、回答して頂いた。これを踏まえ、皆さんから改めて意見をお伺いしたい。また、先ほど説明で出てきた東北ディスティネーションキャンペーンは、JR東日本の東北管内の地域重点販売を行う期間限定キャンペーンである。来年の春から秋にかけて開催する予定であり、新型コロナウイルスが終息すれば多くの観光客に来てもらうことが期待できる。

(布施委員)

資料2の「その他」にもあるように、やはり共通の課題に対して話し合いを重ねるのが大切であると思う。今までも、文化エリアに人を呼ぶために様々な工夫を行って頂いているため新たな案を考えるのは困難であろう。楽しんで頂くだけではなく観光客へお金を落として頂ければ良いと思う。それを踏まえ、子連れが楽しめるような施設（温水プールなど）があれば季節に問わず常時来て頂けるのではないかと。また、米沢の文化人の紹介については今若い層で伊東忠太博士が注目されているようだ。このような情報もキャッチし、色々な側面から米沢の文化人を積極的にPRすべきでは。

(那須野委員)

「かてもの」に関する連携事業は実現が難しいという話があったが、今若い人の間に漢方薬ブームが来ており、調理方法などを紹介している人もいるようだ。非常食ではなく体に良いものという視点から上杉伯爵邸や城史苑で紹介出来ないだろうか。「宇宙の旅」の展示に関しては、先ほども話があったように「はやぶさ2号」の帰還が連日報道されているが、会津大学がJAXAと連携しておりよく名前を目にする。米沢にも山形大学工学部があるため何か博物館と連携できれば良いと思う。最後に、「若い職員同士で話し合いをする」とあるがそれが一番のポイントであり、積極的に行って頂きたいと思う。

(山村委員)

資料1「上杉文化エリア内の催事について」の半日位のコースを考えてみたのだが、例えば、伊東忠太博士に関する建物をめぐるコースや直江兼統に関するコースを作れば、歴史好きの方に来て頂けるのでは。また、おしよしなガイドの協力を得ながらこのようなコースが出来れば米沢に対する見方も変わるのではないかと。

(前山委員)

今年は新型コロナウイルスのために考えさせられることがあった。博物館のワークショップやギャラリートークについても感染対策のため人数制限があり参加できない回もあった。また、知人に展示を案内する機会があったのだが、少し耳が遠い方であったためどうしても大きな声で説明してしまう場面があった。このことから、視覚障がいがある方やギャラリートークに参加できなかった方等が貸し出せる音声ガイドのような物をお借り出来れば良いと思った。やはり、ギャラリートークに参加して学芸員の方の素晴らしい説明を聞いた上で展示を見るのと、参加しないで展示を見るのでは見え方が全く違い、何十倍も楽しむことができる。音声ガイドのようなきちんとしたものではなくても、ギャラリートークを録音したものをお借りできたらと思う。おしよしなガイドの活動についても、新型コロ

ナウウイルスの影響で様々やり方を考えていく必要があると思うのでご指導頂きたい。

(長谷川委員)

稽照殿と博物館の連携について、なかなか難しいという回答であったが、稽照殿は素晴らしい所蔵品があるため何とか連携を実現して頂きたいと思う。また、オーケストラの練習で9月頃に伝国の杜に来たのだが、GOTO トラベルの影響のせいか、宿泊施設からこちらのエリアへ観光しにくる観光客が多く感じた。やはり道の駅に来た観光客の誘致はなかなか難しいと思う。なので、米沢市内の宿泊施設と文化エリアの連携に注力すべきだと思う。また、万世の善光寺に行った時に前田慶次のお墓にお参りにくる人が多く見かけた。この様なファン層が文化エリアに来てもらえる様な工夫があれば良いのではないかな。

(山根委員)

展示において、一つの大きなテーマを作り期間を決めた上でそのテーマに合った展示を行い、その内容の冊子を作成すると、テーマが変わるごとに展示を見る人が増えると思う。既に実施されていると思うが、もっと意識的に行って頂くと良いのでは。また、ホールについては、県外の顧客も重要であるが、米沢市民の利用も重要である。例えば、地元が生んだ演奏家の演奏会をシリーズ化し山形出身の県内外の若手音楽家などに出演してもらえば、地元でもあるので集客率も上がると思う。あるいは、将来的に音大を目指している学生に、発表の場を設けるなどすると盛り上がると思う。

(鈴木委員)

文化エリアと小学校の関わりを話すと、1年生から6年生までの校外学習で必ずこちらのエリアに学習に来るようになってきている。ただ、学校の授業ではなく個人的に上杉エリアに来ている小学生はなかなかいないと思うので、学校から声掛けを行っていききたい。また、道の駅からの集客については、なかなか難しいので宿泊施設と文化エリアのタイアップが重要だと思う。また、保護者の方と話をしてみるとお店の割引情報が話題に上がることがある。例えば、文化エリアの施設を何件か見学すると城史苑のデザートがサービスされるなどという特典があれば良いのではないだろうか。県外・市外の観光客誘致も重要であるが市内の顧客に来てもらえるような工夫も重要である。

(後藤委員)

日頃から、出前授業での学芸員の派遣などに感謝する。出前授業は社会に開かれた教育課程の構築という点で非常にありがたく思っている。今後も続けていきたいと考えている。

上杉神社は米沢の中心地であり、文化エリア全体が市民にとって憩いの場になっていると思う。しかし、雪灯籠祭りや花火大会などの催事の時に伝国の杜が夜利用出来ないことが多いため、地域とより関わりを持つという点で開いて頂ければと思う。文化エリアは子供たちが大人になっても周りに自慢できるような場所なので、地域と博物館、そして文化エリアが関わりあう関係を構築していければと思う。また、コロナ禍により、修学旅行で遠方へ行くことが出来なくなり、旅程を変更することがあった。それにより、今年は米沢を修学旅行先として選ぶ学校が多かった。例えば、来年もこのような状況が続くようであればJRや旅行会社とタイアップして米沢を修学旅行先に選んでももらえるような工夫をして頂きたい。同じ様に、外国人観光客もターゲットに出来ると思う。宿泊施設とタイアップして、着物や甲冑の着付け体験や、館山公園からの景色が外国人観光客の中で人気であるので、そちらに連れていくような内容だと観光客も増えるのではないかな。また、今流行っている情報をキャッチし活かしていくことが重要だと思う。最近では、館山に新しく出来たカフェのかき氷が県内外で人気であり宮城県からを中心に多くの人が来店した。また、漫画「鬼滅の刃」のヒットで伊東忠太博士が注目されている。そういう情報を基にタイアップしていければ良いと思う。

最後に、米沢で活躍しているピアニスト福田直樹氏に神社のライトアップの中で演奏してもらうのも面白いと思う。

(堀江委員)

文化エリアに人を集めるという点においては、米沢出身の有名人を呼んだイベントを行うと多くの人に来てもらえると思う。また、文化エリアの若い人たちでの関わり合いという話があったが、高校生も今教科の枠を超えて、地域課題の解決や興味のあることについて深く学ぶなどというスタイルに変わってきている。実際に、市役所と秋祭りの企画やそのPRビデオ作成を計画した。このように、高校生も文化エリア活性のために何ができるか考える良い機会になると思う。また、博物館の展示は説明が非常に細かく書かれているが、敢えて「何故こうなったのか？」などの質問型の内容だと高校生にとって興味がある内容だと思う。最後に、市内出身の高校生は授業で必ず上杉エリアを訪れるが、市外の高校生は一度も来たことが無い人もいると思う。そういう層に来てもらえる様な工夫を考えていくべきであると思う。

(議長)

今様々意見をお聞きした中で、観光の点から紹介したいことが何点かある。まず、前田慶次ファン層の誘致については11月にNECの協力を得て試験的にヒアラルの体験を実施した。道の駅をスタートとし、善光寺や上杉神社をめぐるルートになっている。音声ガイドのような機械を持ち、ある地点に到着すると前田慶次や直江兼続が画面に出てきてその場所の説明をするという内容である。30人程が参加し、評判が良く、全国的にも同じことを行う自治体が増えるのではと思う。次に、エリア内の割引制度についてであるが、既に道の駅がスタートのスタンプラリーを実施し集めるとプレゼントがもらえるという取り組みを実施した。現状、あまり実績が上がっていないため引き続き実施していく。外国人の誘致については、伯爵邸の和み庭で着物・甲冑着付け体験を行っている。現在はコロナ禍の影響で利用がないが引き続き進めていく。最後に、米沢の有名人で大河ドラマに出演していた眞島秀和氏であるが、おしよしな大使に任命されている。そのため、PRする活動を行って頂けると思う。

②鷹山シアターにおける新番組製作の進捗状況（資料3）

資料3について、事務局から概略を説明した。

(議長)

大変期待の出来る楽しい番組ができるのではと思うが、完成はいつごろになるのか。

(事務局)

まだ確定していないが、来年度中には作成する予定である。

(2) 令和2年度公益財団法人米沢上杉文化振興財団運営中間評価について（資料4）

資料4について事務局長が概略を説明した。

(議長)

秋の特別展「米沢城～上杉氏の居城～」の来館者が104%と多くの入館者があったようである。先ほどもあったように今年は鶴岡や仙台から米沢に来る修学旅行生が多く、それが入館者を押し上げた要因であると考えられる。

(3) 米沢市上杉博物館・置賜文化ホール開催予定事業について（資料5、6）

資料5、6について、事務局長から概略を説明した

(4) その他

(議長)

今回が最後の運営協議会であるので、総括して委員の皆さんに一言ずつ頂きたい。

(布施委員)

今年は新型コロナウイルスの影響があったが、様々対策して頂いたことで安心して見学できる環境が整ったと思うので、引き続き頑張ってもらいたい。

(那須野委員)

協議会を通して、様々なことについて考える機会を頂いて感謝したい。この機会を基に地道に周囲の人のPRに努めたいと思う。

(山村委員)

2年間、勉強させて頂いた。当資料館に来館した方にこれからも博物館や文化エリアの紹介を続けていきたいと思う。

(前山委員)

今までは展示事業に参加することが多かったが、ホール事業にも参加させて頂いた。その中で職員の方のご苦勞を知ることができ大変ためになった。

(長谷川委員)

コロナ禍の中で文化団体の活動が制限されている中で、置賜文化ホールがあることで活動を継続していこうという気持ちになれるので、引き続き頑張ってもらいたい。

(山根委員)

孫が歴史好きなので、是非博物館に連れてきたい。他の人にもPRしていく。

(鈴木委員)

初めて知ることがたくさんあり興味深かった。教頭会を通して親御さんにPRできるようにもっと勉強していきたい。

(後藤委員)

様々教えて頂き、感謝する。これからも展示の見学に来館したいと思う。

(堀江委員)

伝国の杜になかなか来ることができず、心苦しく思っている。これからは来館したいと思う。

(議長)

委員の皆さんの様々な意見を頂戴することが出来て非常に勉強になった2年間であった。なお、職員の皆さんにはより一層頑張ってもらいたい。これからも、皆さんと共に伝国の杜を盛り上げてバックアップしていきたい。今後ともよろしく願いたい。

10 閉 会 (鈴 木)